

歩こう！狛江の古墳の実施について

歩こう！狛江の古墳は、市内の5箇所の古墳を巡るウォークラリーです。

今から約1500年前、狛江の地には多くの古墳が造られ、今もその名残が市内の至る所に残されています。「狛江百塚」とも呼ばれる狛江古墳群は、古くから知られる市の貴重な歴史資源であり、まち中に点在する古墳が市の特色の一つになっています。

こうした古墳を活用する新たな取組として、令和2年4月1日に猪方小川塚古墳公園と亀塚古墳公園を開園しましたが、さらにウォークラリーを実施することで、古墳公園の周知を図るとともに、狛江の歴史や文化財に触れる機会を提供し、狛江への愛着を育み、狛江の歴史に関心を持つきっかけを作っていきます。また、ウォークラリーを通じて市内外に狛江の特色を広くPRしていきます。

1. 実施期間

令和3年3月24日（水）から配布物（古墳カード）がなくなるまで

2. 実施方法

歩こう！狛江の古墳のパンフレットを市内の公立小学校に通う小学6年生に配布するほか、市内の公共施設や狛江駅、和泉多摩川駅等にて配布します。また、市教育委員会ホームページからダウンロードできるようにします。

参加者は、パンフレットに掲載されている地図を頼りに、まちを散策しながら5箇所の古墳を巡ります。古墳を訪れて写真を撮影し、撮影した写真を古墳カード配布窓口にて提示すれば、その古墳のカードが入手できます。さらに、5箇所の古墳を全て訪れ、手に入れた5枚の古墳カードを提示すれば、レアカードが入手できます。

※古墳カードは、猪方小川塚古墳、兜塚古墳、亀塚古墳、経塚古墳、土屋塚古墳の5種類とレアカード（亀塚古墳出土遺物）1種類の計6種類（各1,000枚を配布予定）

※古墳カードの配布窓口は、市役所3階社会教育課窓口と狛江市立古民家園（むいから民家園）の2箇所

3. 留意点

パンフレットを広く配布して周知すること、実施期間を限定せず随時参加型にすることで、一時的に人が集まることを避ける。参加者は、新型コロナウイルス感染症の影響を避けつつ、気候の良い時期に気軽に参加できる。

歩こう！ 狛江の古墳

令和3年3月 発行

編集・発行

狛江市教育委員会

〒201-8585 狛江市和泉本町一丁目1番5号

狛江市刊行物登録番号 R2-46

古墳カードをGET！ 歩こう！ 狛江の古墳

“歩こう！ 狛江の古墳”は、ポイントとなる5つの古墳めぐりウォークラリーです。めぐり順番やまわるルートは自由。裏面の地図をもとに、まちを散策しながら古墳を訪ねてください。1日にすべてまわらなくても構いません。そして、現地にて古墳を訪れた“あかし”を手に入れてください。“あかし”を手に入れたら、“市役所3階社会教育課窓口”または“むいから民家園”を訪ねれば、“古墳カード”が手に入ります！さらに、5つの古墳をコンプリートすると...めぐり古墳は、裏面の地図でピックアップしている5つの古墳。では、いざ、歩こう！ 狛江の古墳！



古墳カードをGET!するには

- Step 1** ポイントとなっている古墳へ行く
ポイントの古墳は、裏面の地図でピックアップしている5つの古墳
- Step 2** 古墳で“あかし”を手に入れる
“あかし”とは、現地で撮影した古墳の写真
本人が古墳と一緒に写っていればおよい
- Step 3** 市役所またはむいから民家園 に行き
カードを手に入れる
“あかし”（撮影した写真）を提示するとカードが手に入ります
※カードの配布は、なくなり次第終了します

さらに、手に入れた5枚の古墳カードを提示すると...

問い合わせ先（窓口）
狛江市教育委員会
教育部社会教育課文化財担当（狛江市役所3階）
狛江市和泉本町1-1-5 03-3430-1111（内線2371）
土・日・祝・年末年始休み 9:00～17:00

むいから民家園（狛江市立古民家園）
狛江市元和泉2-15-5 03-3489-8981
月（休日のときはその翌開園日）・年末年始休み 9:30～16:30

お願い
* 個人の敷地内にある古墳には勝手に立ち入らないでください。
* 市内で立ち入ることのできる古墳は、穴塚古墳、亀塚古墳、猪方小川塚古墳の3か所です。
* 史跡を傷つけたり、汚したりしないでください。
* 写真を撮影する際は、周囲の安全に十分注意してください。
* ウォークラリー中の事故等について、主催者側はその責任を負いかねますので、十分に注意してください。

古墳とは...

古墳とは、古い墳丘墓（土を盛って小高い丘になっているお墓）という意味です。日本列島の大部分では、3世紀後半から7世紀にかけて、一定の造り方に則った大きな古墳が数多く造られました。前方後円墳をはじめとする古墳は、この時期の政治的な秩序を象徴しており、よってこの時代のことを古墳時代と呼んでいます。

古墳時代は、古墳の規模や形、埋葬施設の構造などによって、前期・中期・後期・終末期に区分されます。狛江には、中期から後期にかけての約100年間に、集中して数多くの古墳が造られ、「狛江百塚」と称されてきました。

古墳のカタチ

古墳という巨大な前方後円墳をイメージしますが、実はその形や大きさはさまざまです。例えば、壁画で有名な高松塚古墳やキトラ古墳は円墳で、大きさは直径25メートル、高さ5メートルを超えない程度のもになります。多摩地域に目を向けると、府中市の熊野神社古墳は上円下方墳、多摩市の稲荷塚古墳は八角形墳と呼ばれる特殊な形をしています。

狛江の古墳は、円墳がほとんどで、直径約45メートル、高さ約5メートルの兜塚古墳が今のところ最大規模になります。帆立貝形の亀塚古墳は残念ながら...

古墳の主体部：埋葬施設のこと①

古墳には、墳丘という土を高く盛り上げた部分と、周溝という墳丘を囲む堀の部分があります。そして、亡くなった人を埋葬する主体部（埋葬施設）が設けられています。

埋葬施設は大きく堅穴系と横穴系に分けられ、堅穴系は、墳丘を造ってから墳頂部などを掘り下げて、亡くなった人を埋葬します。埋葬する際に、亡骸は、木や石で造られた棺に納められますが、その形は様々で、舟や家の形をしたものもあります。また、木で作られた木棺の場合は、棺を覆う檜が設けられます。檜は、粘土や木炭、礫（小石）などを材料にして造られます。

古墳の主体部：埋葬施設のこと②

横穴系の埋葬施設は、墳丘を造る過程で、石でできた部屋（石室）を造り、この部屋に亡骸を埋葬します。

この部屋は、石材を積み上げたり、組み合わせたりして造られますが、墳丘の上から埋葬して天井石で塞ぐ堅穴式と墳丘の中にトンネル状の部屋を造り横から出入りして亡骸を埋葬する横穴式があります。

古墳はお墓なので当然亡くなった人が埋葬されています。ただし、その埋葬方法は時期や地域によって異なり、多摩川流域では、6世紀後半から7世紀にかけて横穴式石室をもつ古墳が造られました。

狛江市教育委員会

兜塚古墳

市内で一番大きな古墳(円墳)で、墳頂は市内で一番高い地点(標高30.4メートル)になります。そのためか、墳頂に山の頂付近などで見られる三角点(三角測量の基準となる点)が設置されています。伊豆美神社に近い築山なので“宮山”と呼ばれていました。



墳頂の三角点



『江戸名所図会』の泉龍寺の挿絵に描かれた経塚

奈良の大仏の開眼供養で名高い良弁僧正が、お経を埋め、その目印に松を植えたとの伝承があります。江戸時代の記録には、松の樹下に6枚の板碑があると記されていて、古墳から見つかったという板碑が今も伝わっています。

経塚古墳



昭和15年(1940)に、工場の整地工事の際に偶然発見された古墳時代中期の土器です。南関東地方ではじめて発見されたもので、発見された地名をとって「和泉式土器」と名付けられました。発見地の狛江第一小学校の北東隅にモニュメントが設置されています。



和泉式土器

土屋塚古墳

東側に小規模な造出をもつ円墳です。周溝から出土した円筒埴輪には、上野国(現群馬県)の工人集団の影響が見られ、この地域にも上野国を介して畿内王権の影響が及んでいたとも考えられます。畿内王権の序列に組み込まれた首長が眠っているかもしれません。



出土した円筒埴輪

むいから民家園

狛江市立古民家園

園内には、江戸時代後期に建てられた農家の住宅である旧荒井家住宅主屋と、江戸時代末期に名主の邸宅に構えられた旧高木家長屋門が移築復元されています。古民家にあがることができ、お座敷でゆっくりくつろぐことができます。また、晴れた日に緑側でのんびり過ごせば気分も晴れます。

開園時間：9:30~16:30
休園日：月曜日(休日にあたるときはその翌開園日)、年末年始



絵：神原朋子

猪方小川塚古墳

猪方小川塚古墳

市内ではじめて横穴式石室が確認された古墳です。多摩川流域で横穴式石室をもつ古墳が造られるのは、6世紀後半以降のことになります。狛江古墳群は、5世紀中頃から6世紀中頃の約100年間に、多くの古墳が造られるのが特徴ですが、横穴式石室をもつこの古墳は、古墳群の築造時期とはズレているものになり、副葬品の形態からすると、7世紀中頃に築造されたものと考えられます。6世紀中頃から7世紀にかけて、いったい何が起こっていたのか、古代の関東の情勢に目を向けてみると面白いかもしれません。



出土した耳環と鉄銃

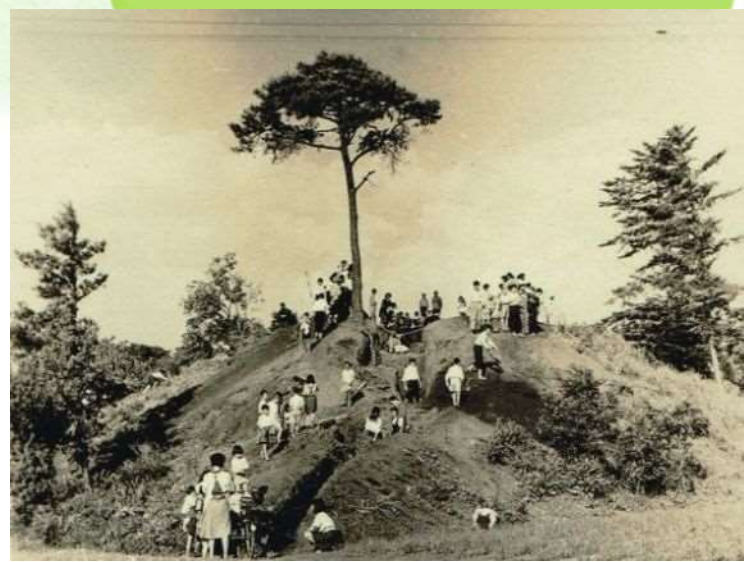
猪方小川塚古墳の石室は、多摩川にて採取したであろう泥岩を加工し、巧みに組み合わせて造られています。副葬品の多くは、盗掘にあい失われてしまったようですが、室内の礎床上から耳環や鉄銃などが出土しています。



土屋塚古墳

亀塚古墳

かつては狛江屈指の規模を誇る帆立貝形の古墳でしたが、開発の波に飲まれてしまい、今では往時の姿をほとんど留めていません。墳丘が失われる以前、昭和26年(1951)に発掘調査が行われ、銅鏡や馬具など、多くの副葬品が発見されました。そのうち、金銅製毛彫金具に刻まれた人物や動物の画像が、高句麗の古墳石室内に描かれた壁画に似ており、狛江と渡来人を結びつける根拠の一つとされてきました。



まだまだ見つかる 狛江の古墳

いったい狛江には、いくつくらい古墳が造られたのでしょうか。これまで3度その分布確認調査が実施されました。この調査結果を踏まえて、現時点で古墳である、古墳であろう、または古墳があったと確認できるのは69基になります。その内18基は、開発に伴う発掘調査にて確認されたもので、例えば、狛江駅北口の再開発では3基の円墳の周溝が、小田急線の高架化・複々線化事業では9基の円墳の周溝が確認されました。近年でも、宅地開発に伴う発掘調査で古墳が確認され、貴重な金属製品などが出土しています。これからも、開発に伴う発掘調査によって古墳の痕跡が確認される可能性は高く、狛江の歴史を塗り替えるような大発見が待っているかも知れません。



弁財天池遺跡上空から多摩川方面を望む



弁財天池1～3号墳（上空から）



宿屋敷西遺跡で発見された古墳周溝



寺前東遺跡で発見された古墳周溝

平成30・31年には、若戸北一丁目の小田急線線路沿い（宿屋敷西遺跡）と東和泉一丁目の世田谷通り沿い（寺前東遺跡）で、これまで知られていなかった古墳跡（円墳）が確認されています。

狛江の古墳のポイント

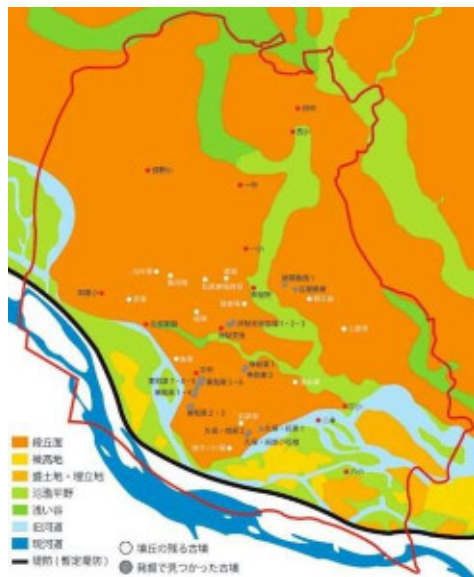
古墳時代の狛江を考えると、立地が多摩川沿いということ、縦断するように野川が流れていたということを忘れてはなりません。古墳の位置を地形図上に落してみると、いくつもの古墳が多摩川や野川から見ると一段高いところ、川から見上げるようなところに象徴的に造られているのです。

実は、坂が少なく平坦に感じる狛江にも若干の起伏があり、多摩川や旧野川に向かって緩やかに傾斜しています。この傾斜のはじまる際、台地の縁辺にほとんどの古墳が造られているのです。

海に囲まれ、内陸に河川や湖の多い日本では、古くから舟などを巧みに操り、海や河川を水上の道として利用してきました。舟にて多摩川を航行していたであろう古代の人々。古代の人々の目に多摩川から望む古墳はどのように映っていたのでしょうか。



多摩川越しに望む狛江



狛江の地形と古墳
治水地形分類図「溝口」（平成28年2月作成、国土地理院）をもとに作成。市域を縦断する氾濫平野と浅い谷の谷筋はかつての野川の流路。また、弁財天池の南の谷筋は清水川の流路になる。



空から見た中和泉三丁目・元和泉二丁目周
写真中央下部の緑の杜が兜塚古墳

まちの中の古墳

今から約一五〇〇年前に造られた古墳。墳墓として築かれた古墳は、地域の象徴的なモノメントとしてそれぞれの時代を歩み、今日まで伝わってきました。狛江の地には、「狛江百塚」といわれるほど数多くの古墳が造られました。小規模ながらも古墳が密集する光景は、壮観だったと思われまふ。時が流れ、墳墓としての記憶が薄れていくと、再利用される古墳がでてきます。また、畑の中にあるため、耕作時に切り崩されてしまいう古墳も。しかし、謂れが知れなくなっても、古墳の名残は、農村風景が広がっていた頃には、至る所で見つけられました。その後、狛江が住宅都市として大きく発展していくと、その多くは姿を消していき、残された古墳を取り巻く環境も大きく変化しています。今では、住宅地の中に点在するのが狛江の古墳の特色になっています。



六郷さくら通りの桜と経塚古墳の



猪方小川塚古墳公園
実物の横穴式石室を展示

古墳を公園に

今に伝わる狛江の古墳は、緑を湛え、まちの中にひっそり佇んでいます。古墳の杜がまちの景観にとけ込み、その存在に気づかないことも。気づかぬうちに、まち並みや季節の移り変わりにアクセントをつけています。こうした古墳をいかに保護・保存していくのか。いかに活用していくのか。新たな取組の一つが、まちと一体感のある公園としての整備です。令和の狛江の古墳は、まちの公園として新たな歩みをはじめます。

